

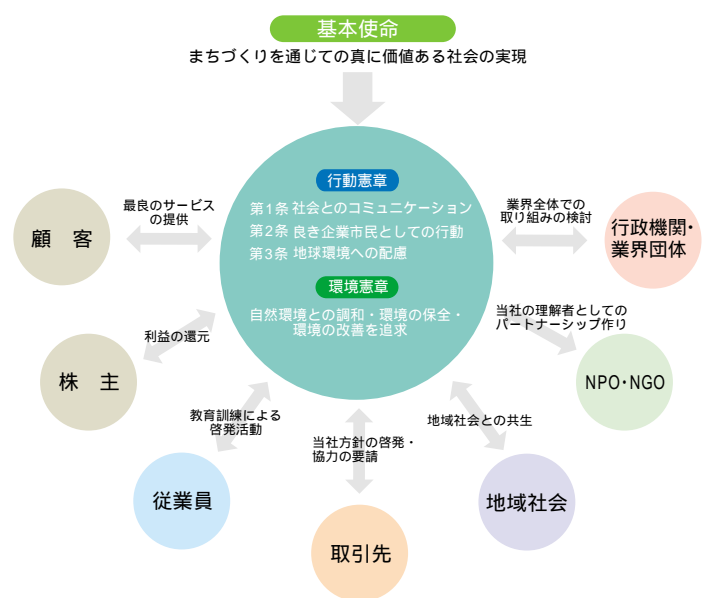
感動、共生、共感の未来を。



三菱地所グループは、幅広いステークホルダーと良好な関係を築いていきます。

三菱地所グループは、「まちづくりを通じての真に価値ある社会の実現」を基本使命とし、行動憲章第1条に「社会とのコミュニケーション」を、第2条に「良き企業市民としての行動」を明記しています。また、第3条で「地球環境への配慮」を経営の重点課題とすることを明らかにし、その実現のため「環境憲章」を制定して自然環境との調和・環境の保全・環境の改善をはかっています。この実現のためには、企業活動に関わる社内外の幅広いステークホルダー^{〔*1〕}と良好な関係を築き、コラボレート(共同・協力)していくことが重要です。三菱地所グループでは、企業が果たすべき説明責任を重視し、積極的に情報を発信すると同時に、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを大切にしています。

〔*1〕ステークホルダー
顧客、株主、従業員、取引先、投資家、地域社会など企業を取り巻く利害関係者の総称。



「環境への取り組み」 [URL http://csr.mec.co.jp/eco.html](http://csr.mec.co.jp/eco.html)

「社会貢献活動」 [URL http://csr.mec.co.jp/kouken.html](http://csr.mec.co.jp/kouken.html)

顧客 / 株主とのコミュニケーション

顧客 / 株主への情報開示

三菱地所は、財務情報はもとより環境情報の開示も積極的に行っています。ホームページには「環境への取り組み」のページを設け、グループとしての環

境経営の推進やISO14001の認証の取得状況などの情報をタイムリーに発信しています。2003年6月にはホームページのリニューアルを行い、よりきめ細かな情報の提供に努めていま

す。また、株主の皆様へ配布する事業報告書にも「環境保全への取り組みと社会貢献」に関する情報を掲載しています。



ホームページ URL <http://csr.mec.co.jp/eco.html>



「環境報告書 2002」アンケート結果の主な項目をご報告します。

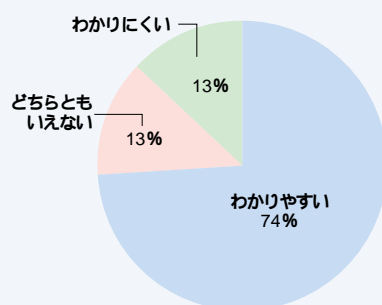


三菱地所グループ「環境報告書 2002」

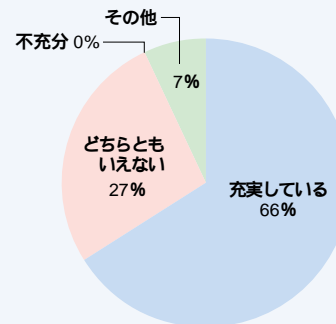
頂いたご意見

アンケートの結果、多くのご意見を頂きました。主なものをご紹介します。環境報告書に「顔」を持たせたいかがか。何か特徴が欲しい。(4~11ページに丸の内再構築事業における取り組みを掲載しました)各グループ会社の活動を記載して欲しい。(12~13・22~38ページにグループ会社も含めた取り組みを記載しました)

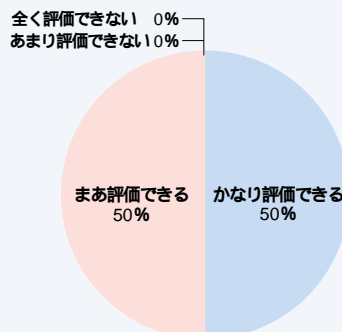
報告書のわかりやすさ



報告書の内容



環境問題への取り組み



どの活動内容に関心がありますか(上位2項目)

- 三菱地所ビル管理運営部署の活動について
- ・ビル全体の使用資源の抑制
 - ・営繕工事における環境負荷軽減
- 三菱地所設計の活動について
- ・設計監理業務における活動
 - ・日常業務(オフィス)における活動
- 三菱地所ホームの活動について
- ・産業廃棄物の抑制
 - ・施工時の吹付材使用状況の改善

従業員とのコミュニケーション

行動憲章研修

環境保全、社会貢献、コンプライアンスについての講演とグループ討議を通して、知識の習得及び主体的な考察を行うことにより、日常業務における「三菱地所グループ行動憲章」の実践を進めていくことを目的に、「行動憲章に基づく環境保全・社会貢献研修」「コンプライアンス研修」を実施しました。2002年度は前年度までの未受講者を対象に、春期・秋期に実施し、約400名が受講しました。



環境キャンペーン

環境問題に関する意識啓発のため、社内で毎年「環境キャンペーン」を開催しています。2002年度は6月5日の「環境の日」をはさんだ6月4日～7日に、「ヒートアイランド現象の防止」をテーマに、屋上緑化・壁面緑化、保水性舗装、丸の内再構築事業における環境保全の取り組み事例などの展示を行い、140名の来場がありました。



環境報告書の社内説明会

三菱地所では、全社員に対し環境報告書を配布し環境意識と環境行動の啓発に努めています。2002年11月19日、21日には社員の理解をより深めるため、環境報告書とは何か、環境報告書の意義、各社の動向、当社グループの環境報告書の特徴などについて社内説明会を開催しました。



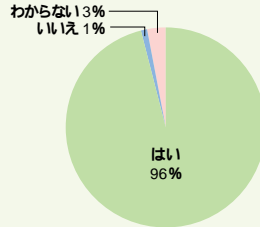
人権の尊重

三菱地所では2002年に「三菱地所グループ行動憲章」を制定し、その第2条と第7条では人権の尊重を掲げ、社会への貢献と人権が尊重された職場環境づくりをめざしています。現在、企業を取り巻く環境として、「個

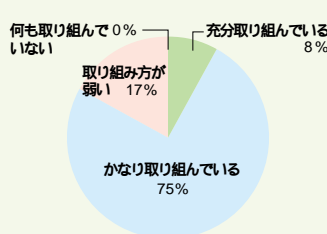
環境意識調査

三菱地所では、社員の環境意識の把握と環境活動の促進を目的として、第1回環境意識調査を2003年3月14日～3月31日にインターネットにより実施しました。本支店総合事務職群782名の対象者のうち299名より回答がありました。(回収率38.2%) 調査結果の一部を紹介します。

企業は環境問題に積極的に取り組むべきだと思いますか。

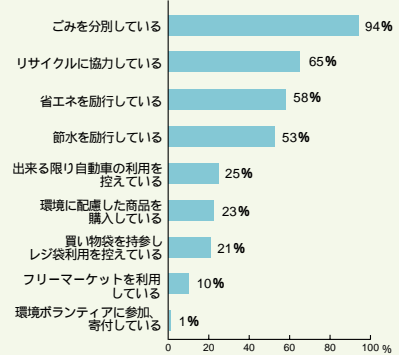


当社における環境への取り組みは充分だと思いますか。

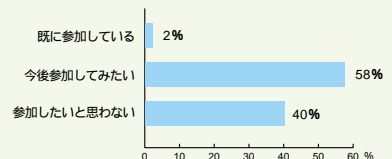


今後とも継続的に社員の意識調査を実施するとともに、その結果を踏まえた取り組みを進めていきます。

あなたが家庭で実行していることを以下のなかからあげてください。



環境保全に関するボランティア(植林、里山づくり、その他)に参加してみたいと思いますか。



人情報保護法」や企業の社会的責任(CSR)の規格化の動き、社会的責任投資(SRI)に基づく企業評価の多様化など、人権の尊重なしには持続的な発展は難しい流れとなっています。三菱地所グループでは、研修や啓発活動を積極的に実施し、人権を尊重する心を養い、あらゆる人種や民族、大人、子ども、高齢者及び障害者が共存し、男女が共同して参画できる社会づくりに貢献することをめざしています。

セクシュアル・ハラスメント

三菱地所では、改正男女雇用機会均等法に基づきセクシュアル・ハラスメント苦情・相談窓口を設けています。「三菱地所グループ行動憲章」でも、セクシュアル・ハラスメントを許さないことを明記し、人権が尊重された職場環境づくりをめざしています。セクシュアル・ハラスメントの訴えがあった場合には、個人のプライバシーの尊重を第一に、相談窓口及び人権啓発委員会事務局が、客観的かつ公正な立場から調査の上、措置を講じます。

メンタルヘルス

三菱地所では、年1回定期健康診断を実施するとともに、社員とその家族の心の健康を維持増進するために、相談室(MDルーム;メンタルデベロップメントルーム)を設置し、カウンセリングを行っています。またストレスチェックリストを配布し、その実施を案内しています。

能力開発について

三菱地所では、1999年より「社員のプロ化」を基本理念とする人事制度改革を行い、社員の主体性、自律性を尊重するとともに、挑戦的かつ創造的な組織風土づくりをめざしています。能力開発メニューにおいても、従来の各階層別、業務別研修に加え、社員個々の課題に応じて取り組める選択型研修や、社員のワークキャリア及びライフキャリアを年代の節目で考えることを目的とするキャリアリフレッシュ研修を実施し、社員のプロ化を支援しています。また、環境保全・社会貢献研修、人権研修、コンプライアンス研修につ

いても、能力開発全体の礎となる教育として積極的に取り組んでいます。

各種ボランティアサークルの支援

音訳ボランティアサークル

三菱地所では、目の不自由な方々に多くの情報を楽しんでもらうため、本や雑誌などの活字情報を音に訳す、音訳ボランティアサークルをつくり活動しています。各ボランティアは専門家による指導を受け、昼休みや自宅で練習し、音訳テープの制作を行っています。



「野鳥と自然のお便り」年4回発行（46ページ参照）
テープ雑誌「オリンピック」
財団法人日本オリンピック委員会（JOC）が発行している広報誌「オリンピック」の音訳テープを制作し、全国の盲学校（高等部）や点字図書館等へ無料配布しています。

退職者サークル

「三菱地所ゆうゆう倶楽部」

三菱地所では、社会の課題に対し、社員と退職者がともに取り組むことを支援

しています。その一環として、有志による退職者サークル「三菱地所ゆうゆう倶楽部」が設立（2001年12月）されました。会員は社会貢献自主プログラムの案内を受け、「福祉コンサート」や「環境美化プロジェクト」「障害者就労支援プロジェクト」等へ参加しています。



ボランティア支援制度「社会人倶楽部」

ボランティア支援制度

三菱地所では、社員のボランティア支援制度を充実させています。1995年にボランティア支援組織「社会人倶楽部」を設置し、国連の提唱した「ボランティア国際年」の2001年には、ボランティア休暇制度の新設等「社会人倶楽部」におけるボランティア支援制度の内容を大幅に拡充しました。

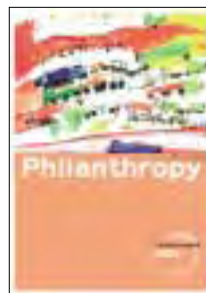
「社会人倶楽部」の支援制度概要
ボランティア休暇
ソーシャル・ラーニング
（就業時間内の活動）
ボランティア保険付保
活動費補助
マッチングギフト
社員提案型支援プログラム

ボランティア情報誌の発行

三菱地所が行っている社会貢献活動を報告し、社会貢献理念の理解やボランティア啓発につながることを目的として、次のボランティア情報誌を発行しています。

「三菱地所のフィランソロピー」

社会貢献理念である「共生」を解説し、社会貢献活動を環境保全・地域社会の活動・芸術文化支援・社会福祉の4分野に分け、それぞれの1年間の活動内容を紹介しています。



「応援団」

企業・地域・社員の共生をめざす社内向け活動報告紙。年4回発行で、3ヶ月分の社会貢献と環境保全の活動内容について自主プログラムを中心に報告しています。



取引先とのコミュニケーション

オフィス家具リユースネットワーク

三菱地所では環境保全と社会貢献の観点から、テナント等の事務所移転やレイアウト変更等により発生する不要なオフィス家具の有効利用をはかり、民間非営利団体や社会福祉施設等に提供する取り組みである「オフィス家具リユースネットワーク」を1998年度より行っています。2002年度は9団体に対し、252点のオフィス家具を提供しました。



グリーン購入(事務用品)の推進

三菱地所では再生紙の積極的な使用、環境配慮型商品の導入を進めています。使用する紙製品ごとに古紙配合率・白色度のガイドラインを策定し（1998年）、これに沿って紙製品を購入しています。また、1997年から解体作業を行った旧丸ビルの基礎である松杭をリサイクルして封筒や環境報告書を作成しています。紙製品以外についても、再生材使用商品、環境対応商品、廃棄時に分別可能な商品の購入を進めています。

低公害車の導入推進

三菱地所では業務のために自動車を利用する部署において、事業活動による環境負荷を低減する取り組みの一環として2003年3月より低公害車（電気、天然ガス、メタノール、ハイブリ

ッド、低排出ガス自動車）の導入に努めています。2003年3月31日現在、30台（所有12台、リース18台）のうち5台（約17%）が低公害車であり、ディーゼル車についても東京都環境確保条例等に抵触する車種は使用していません。今後とも低公害車の導入促進に努めていきます。

発注行動指針

三菱地所では行動憲章に定める基本使命及び行動原則を踏まえ、発注に携わる役員、社員が遵守すべき基本的考えをまとめた「発注行動指針」を策定しています。建築工事の発注から文房具の購入まで企業としての消費行為全般を対象としていますが、この指針において「発注に際しては資源保護・環境保全に留意すること」と明文化しています。

地域社会とのコミュニケーション

三菱地所の Shall We

新西六郷青少年合唱団コンサートへのご招待

企業市民の立場から芸術文化支援や社会福祉・地域交流の社会貢献活動として1996年より毎年、お年寄りや障害者など、音楽会へ足を運ぶ機会の少ない方々を招待する福祉コンサートを開催しています。出演は音楽教育を通じて健全な青少年・児童の育成を実践するジュニア合唱団「新西六郷青少年合唱団」とソプラノ歌手などのゲストミュージシャンです。2002年度は東京・横浜にて計4回のコンサートを開催しました。



障害児のための児童画コンクール

キラキラとアートコンクール

表現したい思いを紙の上に爆発させたその作品群には、才能のきらめきがあふれています。“子どもたちの才能を支援したい”“その可能性を広げるお手伝いをしたい”という想いから、社会福祉法人東京コロニー・アートビリティの協力を得て、2002年度に本コンクールを実施しました。応募作品はすべてインターネットで公開するという全員参加型のコンクールです。日本最

大の児童画データベースサイト「こどものエコム」上で、世界中どこからでも作品を閲覧することができ、優秀作品40点については、東京ほか全国7ヶ所の主要都市で展示会を開催しました。

(<http://www.kodomonoe.com/>)

本報告書の表紙は、優秀作品の一部を使ってデザインしています。



優秀作品原画展(名古屋会場)

蕎麦でご長寿!! いきいき配食そば

1999年より、特別養護老人ホーム入所者の慰安と地域交流を目的として実施しており、2002年度は千代田区立一番町特別養護老人ホームと特別養護老人ホーム「若竹苑」(横浜市神奈川区)で開催しました。蕎麦職人の指導のもと、入所者や施設で働く方々が蕎麦打ちを行い、打ちたてのそばを食しました。



一緒に創ろう! 楽しい陶芸教室

2000年より地域の方々と創作活動を通し交流をはかる「一緒に創ろう! 楽しい陶芸教室」を行っています。参加者を講師と社員ボランティアがサポートしながら、2時間あまりで作品を作ります。2002年度は東京都千代田区にて計3回開催しました。



NHK交響楽団・日本フィルハーモニー交響楽団への支援

三菱地所はスペシャルサプライヤーとして、1991年より「NHK交響楽団」を支援しています。同楽団は1シーズン50回以上の定期公演をはじめ、全国各地で演奏活動を行い、国内外から高い評価を得ています。また「市民とともに歩むオーケストラ」として、多彩な演奏活動を展開している日本フィルハーモニー交響楽団の支援もしています。



© NHK交響楽団

障害者自立支援プロジェクト

「ナチュラルサポート海老名」のオープン・運営に協力

三菱地所の退職者サークル「三菱地所ゆうゆう倶楽部」は、NPO法人日本就労支援センターが開設した福祉作業所（2002年9月末に神奈川県海老名市でオープン）の運営に協力しています。同センターは今後全国の福祉作業所の商品の検品、物流、販路開拓、クレー



ム処理等の幅広い業務を行い、働く障害者の自立の一助を担っていく予定です。

文京盲学校の校外臨床実習に協力

盲学校では多くの視覚障害者が将来の自立をめざしてマッサージを学んでいます。三菱地所では、関係会社である（株）リーヴ・スポーツ及びNPO法人日本就労支援センターの協力により、文京盲学校の卒業予定者2名の校外臨床実習を受け入れました。実習は2002年12月に有楽町電気ビル地下1階にあるリーヴ・クイックマッサージ有楽町店で1週間行われ、開店準備から、受付、レジ操作等も体験しました。

おたる潮まつり

「おたる潮まつり」は、小樽市の郷土まつりとして1966年より開催しており、36回を数えています。2002年は7月26日から28日までの3日間小樽港第3ふ頭周辺及び市内中心部で開催されました。おたる望洋パークタウンの開発事業に係る地域貢献を目的として、7月27日には約6,000人が参加する「潮ねりこみ」に当社グループも参加しました。



一人ひとりの力は小さくても集まれば大きな力に！

使用済プリペイドカード・切手の寄付

三菱地所が管理するビル内に使用済プリペイドカードと切手の回収箱を設け、社員だけでなく、ビルの利用者にも協力を呼びかけて活動の輪を広げています。



社内バザー＆ブックフェア

社員が気軽に参加できるボランティア活動として、年に1度社内チャリティーバザー＆ブックフェアを開催しています。2002年度は旧丸ビルを支えた松杭を材料にした写真立てやペン立ても販売しました。バザーでの売上金は、障害者の就労を支援するNPOや作業所などに寄付をしています。



カレンダー・手帳の寄贈

年末に他社から受領したカレンダーの未使用分を、1994年度より国内の福祉施設やNGOを通じて海外へ寄贈しています。アフリカでは子どもたちがカレンダーを使って数字を学んだり、カレンダーの裏面をノート代わりに使っています。



マザーランド・アカデミー提供

書き損じハガキの回収

ダルニー奨学金制度は、タイの貧しい子どもの中学校進学を支援する国際教育里親支援制度です。書き損じハガキ250枚でタイの中学生1人の1年間の奨学金となります。国際協力NPOである日本民際交流センターへ寄付し、奨学金としてタイの子どもたちの教育に役立てられています。2002年度は752枚の寄付が集まり、中学生1人(3年分)の奨学金となりました。



バザー風景

「丸の内さえずり館」の運営

丸の内さえずり館は、1999年10月より三菱地所とNPO日本野鳥の会とが協働して開設し、運営しています。同館のスペースは三菱地所が無償で提供しているもので、2002年9月には来館者数累計が1万人を超えました。

写真、絵画、模型等多様な作品を月替りで展示し、都心の立地を活かして幅広い人々が訪れることのできる憩いの場として、環境保全意識の向上、丸の内地区の魅力づくりに資することを目的としています。

2003年7月には「丸の内の森」をイメージしてリニューアルオープンしました。



丸の内さえずり館

東京都千代田区丸の内三丁目4番1号
新国際ビル1階
Tel 03-5220-3389

月～金 11:00～17:00
土 13:00～18:00
(日・祝祭日は休館)

自然について楽しく学ぶ 「自然を楽しむ倶楽部」

「丸の内さえずり館」を拠点にした会員ネットワーク「自然を楽しむ倶楽部」では、都会の野鳥や草花、昆虫といったさまざまなテーマを設け、講演会や観察会などのイベントを年間約10回開催しています。会員には、野鳥情報や自然観察会のスケジュールなどを載せたニュースレターを季節ごとに年4回、無料で送付しています。



「さえずり探検隊が行く!」 夏休み親子環境学習

親子で自然に親しんでもらうため、「夏休み親子環境学習」を1997年か

ら毎年実施しており、2002年度は千葉県習志野市の谷津干潟自然観察センターで自然観察を行いました。約50人の親子や「自然を楽しむ倶楽部」の

会員が参加し、野鳥をはじめとしたさまざまな生き物を観察しました。

高齢者福祉施設や児童館へ「出張! 野鳥のお話隊」

丸の内さえずり館に足を運ぶことができない方のため、丸の内さえずり館のボランティアが出向き、スライド等を使って野鳥に関する話やさえずりを紹介し、野鳥に親しむ機会を提供しています。



野鳥立体図鑑

目の不自由な方に丸の内さえずり館で楽しんでもらうため、触って聴く「野鳥立体図鑑」を設置しました。ボランティアが制作したバードカービング(木彫りの鳥)に触れながら、同時に鳥の解説や鳴き声を聴くことができます。



目の不自由な方のため 「野鳥と自然のお便り」の発行

三菱地所では、日本野鳥の会と協力して、目の不自由な方のために「野鳥と自然のお便り」を制作しています。これは、野鳥の豆知識や自然情報を社員ボランティアがナレーションを担当してカセットテープにまとめたもので、希望のあった全国の視覚障害者や盲学校、盲老人ホームに季節ごとに送っています（年間約6,000本発行）。テープ作成には、100人をこえる社員ボランティアが携わっています。



目の不自由な方とともに 「自然観察会」

「野鳥と自然のお便り」の送付先の方々に招待し、皇居東御苑周辺の小鳥のさえずりや草花を楽しんでもらう「自然観察会」を行っています。参加者は親



子や夫婦で、名古屋などから新幹線で参加する方もいます。

NPO パネル展

三菱地所では三菱地所ビルマネジメント(株)との共催で、1999年よりNPO団体に活動等を紹介する場として、横浜ランドマークタワー(69階)スカイガーデンを提供し、パネル展を開催しています。2002年度は(社)日本ユネスコ協会連盟の「世界遺産写真展」並びに障害者のスポーツ普及をめ



ユネスコ世界遺産展

ざすNPOバラエティクラブ・ジャパンの「障害児スポーツ写真展」を開催しました。

NPO 法人 ^{だいまるゆう} 大丸有エリアマネジ メント協会

大丸有エリアマネジメント協会は、大手町・丸の内・有楽町地区(大丸有)の都心エリアで、街をより一層活性化させ、人々の多様な参加・交流の機会を創るNPO法人で、この地区に関係する企業・団体やワーカー、学識者、弁護士等が集まり2002年9月に設立されました(愛称 Ligare)。同協会は視察・見学会・街のガイドの実施、広報活動、モニター・マーケティング調査、環境向上・イベント支援等の活動を行っています。三菱地所では同協会の活動を支援し、協力して地域の活性化に取り組んでいます。

リガーレ=ラテン語で“結ぶ”の意



中学生の視察ガイド

行政機関・業界団体とのコミュニケーション

不動産協会環境委員長に 就任

三菱地所の環境担当役員は、社団法人不動産協会の環境委員会委員長に就任し、不動産業界における環境への取り組みを積極的に進めています。

「改正省エネルギー法」への 意見提出

三菱地所は、社団法人不動産協会の環境小委員会委員長として、また三菱地所設計は社団法人日本ビルディング協会連合会の要請を受け、「エネルギー使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律」施行に伴う政省令(2003年4月1日施行)検討のため、経済産業省総合資源エネルギー調査会省エネルギー基準部会の工場判断基準小委員会に参画しました。

「環境経営格付け」に 参加

三菱地所は、環境経営学会の付属組織である環境経営格付機構が実施する「環境経営格付け」に参加しました。同格付けは、環境に積極的に取り組んでいる86社を対象に「環境経営信頼性」、「環境保全」、「社会・文化・倫理」の3つの分野について「情報開示と説明責任」、「地球温暖化対策」、「企業倫理」などの20項目にわたる調査票を提出し、トップインタビューも含めて企業を「環境」で格付けするものです。各項目について組織、戦略、成果の状況を4段階で評価した木のイラストで結果を表示しますが、三菱地所は総合で94点(100点満点)の評価を受けました。



環境経営格付けツリー図

外部からの表彰

三菱地所の企業としての取り組みが各界から評価を受けました。

「ディスクロージャー優良企業」建設・住宅・不動産部門で1位(2002年10月4日)

日本証券アナリスト協会による「ディスクロージャー優良企業選定」において、建設・住宅・不動産部門18社のなか、トップに選定され、「ディスクロージャー優良企業」として表彰を受けました。本制度は延べ413人のアナリストが9業種116社を対象に、企業の自発的、積極的な開示活動などを評価して毎年優良企業を選定するものです。不動産会社は2002年から評価対象に追加されたもので、経営トップが定期的なミーティングに積極的に出席し質疑応答にも十分に対応していることや、IR部門が十分に機能を発揮し、IRに対して前向きに取り組む姿勢が評価されました。

「経営倫理努力賞」受賞(2002年11月13日)

経営倫理実践研究センター(BERC; ビジネス・エシックス・リサーチ・センター)が主催する「経営倫理努力賞」において「優秀努力賞」を受賞しました。同センターは「日本経営倫理学会」の協力の下、企業の経営倫理を実践研究する産学の拠点づくりと啓蒙普及活動を目途とする専門機関として、1997年に設立された組織です。当社の「グループ会社を含めて体制の整備・推進をはかり、積極的に取り組んでいる」ことが評価されました。

第1回「誠実な企業」賞 大賞受賞(2003年1月24日)

KPMG フィナンシャル(株)・産経新聞社が主催する第1回「誠実な企業」賞の大賞を受賞しました。受賞理由は次の通りです。

トップ・マネジメントのコンプライアンスの体制整備へのコミットメントが強固
倫理担当役員に不正行為の調査権限を付与するなど、不祥事等に対する調査・是正プロセスを重視
2002年度証券アナリスト協会からも「ディスクロージャー優良企業」に選出されるなどIRへの取り組みも積極的

丸の内さえずり館「ナイスアシスト賞」を受賞(2003年6月21日)

三菱地所が財団法人日本野鳥の会と協働で運営する「丸の内さえずり館」(45ページ参照)は、勤労者のボランティア活動への関心を高めることを目的に勤労者マルチライフ支援事業推進協議会が主催する2002年度「ナイスアシスト賞」(団体・NPOの部、東京地区)を受賞しました。これは都会のオアシスとして多くのサラリーマンが利用し、その運営には企業OB30名が携っており、東京らしさがあることが評価されたものです。

朝日新聞文化財団「企業の社会貢献」賞を受賞(2003年7月8日)

財団法人朝日新聞文化財団が主催する第13回「企業の社会貢献」賞において、「社会との共生」賞を受賞しました。これは、自社で独自にNPOやボランティア団体と協働でさまざまな活動を展開したり、きめ細かな社会支援活動を実施していることに加え、本業でも東京丸の内での再開発において、従来のビジネスセンターに、ショッピングやより豊かな生活にも寄与する機能を付加するなど、都市部にある企業の地域・社会との共生のあり方を示したことが評価されたものです。



朝日新聞文化財団「企業の社会貢献」賞の受賞式

ダウ・ジョーンズ社のサステナビリティ・インデックスに3年連続して選定

近年、環境や社会貢献への取り組みを積極的に進める企業に優先的に投資するSRI(Social Responsibility Investment: 社会的責任投資)が脚光を浴びており、持続的発展が期待できる企業かどうかの格付けがなされています。米国ダウ・ジョーンズ社は世界26カ国2,500社の優良企業から持続的成長が見込まれる企業を選定してインデックスとして公表していますが、三菱地所は2000年から3年連

続してこのインデックスに選定されました(2002年9月現在、日本企業37社を選定)。

1%クラブ

三菱地所は1995年より、経団連(当時)が設立した1%(ワンパーセント)クラブに加入しています。同クラブは、経常利益の1%以上を社会貢献活動のために拠出することに努め、豊かなゆとりあるやさしい社会の創造を目的としています。2001年度の社会貢献活動に係る支出額は約489百万円で、経常利益の1.54%にあたりま

す。純粋な経済活動にとどまらず、利益と社会的責任のバランスの上になっ、て、社会の課題に取り組んでいます。

